

備前市事務事業評価シート

(平成22年度事業)

事業の概要			
事業開始年度	平成17年度～		
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	03 災害に強いまちづくり
	小項目	施策	01 河川改修・砂防施設整備
事務事業名	02	河川改良事業	
根拠法令・例規等	河川法		
問	担当課(室)	都市整備課	
合	職・氏名	土木係長 尾野田瑞穂	
先	電話	0869-64-1835	
	このシート作成に要した時間	4.0 時間	

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	河川沿線で生活を営む市民
目的(何のために)	台風等の大雨時の堤防の決壊・氾濫による浸水被害を防ぐことにより、市民の生命・財産を守る。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	河川の排水能力を向上させる。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	河川改良事業	河川の排水能力を向上させるため、護岸を改良する。	

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績	
決算額	直接事業費		47,103	17,655	121,090	
	必要人員(人件費)	千円	1.22人	6,397	0.78人	5,765
	事業費計		53,500	22,999	126,855	
	国県支出金			8,493	66,783	
	受益者負担					
	繰入金	千円			12,800	
その他()						
一般財源		53,500	14,506	47,272		
受益者負担比率	%	-	-	-		
結果指標名		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績	
結果指標	河川改良延長	説明	河川を改良した延長			
	結果指標量	m	299	183	735	
	対前年比	%	-	61.2%	401.6%	
	活動コスト	円	47,103,000	17,655,000	121,090,000	
単位当たりコスト	円	157,535	96,475	164,748		

事業の成果					
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
河川改良率	目標値(A)	50	50	50	50
	実績値(B)	62.4	68.6	83.4	到達目標値
	達成率(B/A)	124.80%	137.20%	166.80%	毎年度
成果指標設定の考え方・式や説明					

工事施工延長は排水路の改良も含めているが、河川改良延長の工事施工延長に占める割合を求める。
河川改良率 = 河川改良延長 / 工事施工延長

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	妥当性評価 <A~E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	A
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	B
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参加している	B

事業の目的やその数値目標がある成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度(H23年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	要望箇所が多々あるため、優先順位を考えながら、事業を実施していく。					

総合評価	5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	評価区分 <A~E>	B	
台風による大雨に対応するためには必要な事業であるので、投資効果を投資効果を考慮しながら優先順位を決め、早期に整備をしていく必要がある。				

平成24年度の方向性・取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	改良箇所を十分に精査し、投資効果を考慮しながら優先順位をつけて事業を進めていく。					